

一般演題3-3

泌尿器科手術後、吻合不全・瘻孔の治療に難渋したがHBO追加治療が有効であった4例

南 彰紀 田中智章 鞍作克之 山崎健史
仲谷達也

大阪市立大学医学部 泌尿器病態学

泌尿科分野において放射線治療後の膀胱炎・前立腺炎などの臓器障害でHBOを用いることがあるが、周術期で施行することは少ない。しかしながら、担癌患者に対する泌尿器科手術後、吻合不全などが改善せず治療に難渋することがしばしば経験される。今回組織修復遅延(吻合不全・瘻孔)の治療に難渋していた4症例に追加治療としてHBOを施行して治癒を得たため報告する。

【症例1】

55歳女性、子宮頸癌に対して婦人科で広範子宮全摘+両側付属器摘除施行。術後より膀胱瘻を認め当科紹介、一度膀胱瘻閉鎖術と保存的に尿道バルーンカテーテルを留置継続も約半年閉鎖なし。再度、膀胱瘻の瘻孔閉鎖術を施行し、直後にHBO(2ATA,60分)を計10回施行したところ閉鎖を確認できた。

【症例2】

76歳男性、外科で直腸癌術後。前立腺・尿道に直腸癌の再発を認め当科紹介。前立腺・膀胱・尿道摘除と尿路変向術(回腸導管造設術)施行し尿路ストマを作成した。術後腹腔内に膿瘍形成あり、また左尿管と回腸導管との吻合部不全を認め、保存的に尿管ステント留置継続や抗生剤治療も改善を認めなかった。追加でHBO(2ATA,60分)を10回施行して造影検査施行、尿管回腸導管の吻合部リークの消失を確認できた。

【症例3】

68歳男性、前立腺癌に対してロボット補助下前立腺全摘除術施行。術後、膀胱尿道吻合部より尿漏出あり。尿道バルーン留置継続とHBO(2ATA,60min)を10回施行してリーク消失を確認し、尿道バルーンカテーテルを抜去できた。

【症例4】

72歳男性、去勢抵抗性前立腺癌に対して姑息的に開腹前立腺全摘除術施行。膀胱尿道吻合部より尿漏出を認め、保存的に経過みるも改善せず。HBO(2ATA,60min)を計3コース(46回)施行した。徐々に吻合不全部の改善を認め、術後4か月でリーク消失、尿道バルーンカテーテルを抜去できた。

上記4例ともHBO施行による副事象はなく、問題となっていた瘻孔・吻合不全は治癒している。

HBOには組織修復効果があるとされ気管支吻合不全などで効果があると報告されているが、泌尿器科術後ではほとんど報告がない。上記症例は全員が担癌患者の術後であり、手術操作や患者状態等により臓器・組織の虚血が疑われた。HBOは虚血改善作用があり、Minami A et al., Neurourol Urodyn. 2018 Nov 9.でも一酸化窒素産生酵素(NOS)の発現増強を介してその効果を発揮するとされる。

今回の4例でも同様に虚血改善により組織修復を得られた可能性があり、副事象も認めていない。今後泌尿器科周術期の吻合不全などの合併症治療にHBO施行する有用性が示唆された。